

おもい  
想いの  
未来を  
描こう

弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター・弘前市立中央公民館  
弘前大学との地域づくり連携事業

# 地域未来創生塾 @中央公民館

参加  
無料  
お申込み不要

日程: **令和2年10月14日(水)**から**令和3年2月24日(水)**の  
期間の**第2**および**第4水曜日**(全10回・第2回のみ第5木曜日)

時間: **18:30~20:00** 対象: **弘前市および近隣にお住まいの高校生・一般の方**

会場: **弘前文化センター中会議室** および**Web開催** ※第9回のみ視聴覚室(弘前市下白銀町19-4)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会場でのご参加の際は必ずマスクの着用をお願いします。また、当日体調の優れない方は、ご無理をされないようにお願いします。※会場にマスクの用意はございません。各自、ご準備をお願いします。

Zoomアプリを使用してWeb参加が可能です。また、パブリックビューイングも実施しますので合わせてご活用ください。



zoom

[ミーティングID] **248 186 4809** [パスワード] **393198**

QRコードで参加▶



※全10回のうち6回ご参加の方には修了証を授与します。最新情報については、チラシ配布および地域未来創生センターホームページに掲載します。  
主催:弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター 共催:弘前市教育委員会(中央公民館) 後援:弘前市・東奥日報社・陸奥新報社

お問合せ

弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター ☎0172-39-3198(平日10:15~17:00)  
〒036-8560 青森県弘前市文京町1 E-mail irrc@hirosaki-u.ac.jp URL <http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/irrc/>

# 「地域未来創生塾@中央公民館」

## 目的

「持続的で豊かな地域創造」をテーマに全10回の講座を開催します。具体的には、人口減少にともなう様々な地域課題の対策や地域文化資源の有効利用策・地域の防災・減災などを模索するために、地域のみならず弘前大学人文社会科学部の教員及び学生が、講義形式やワークショップ形式で学びを深めます。関心あるテーマのみのご参加も大歓迎です。



## 年間計画

第1回	令和2年10月14日(水)	地域商店街活性化の課題と対策	講師:人文社会科学部助教 林 彦櫻(専門:経営史) 内容:地域商店街の衰退が目目される中、空き店舗問題、後継者難問題の発生を歴史的な視点から考えながら、活性化に成功する事例の経験を紹介しします。その上で、青森県における商店街の現状を踏まえ、今後青森県の商店街活性化の対策について考えてみます。
第2回	令和2年10月29日(木)	ゴミから暮らしを振り返る	講師:人文社会科学部准教授 近藤 史(専門:地域研究) 内容:レジ袋の有料化を契機に、海洋プラスチック問題をはじめとするゴミ問題への関心が高まっています。私たちが捨てたゴミは、どこへ行くのでしょうか?そもそも「ゴミ」って何でしょうか?あまり知る機会のないアフリカの人たちのライフスタイルも参考にしながら、私たちの暮らしとゴミについて考えます。
第3回	令和2年11月11日(水)	戦略と管理会計	講師:人文社会科学部准教授 小杉 雅俊(専門:管理会計・原価計算) 内容:管理会計分野では、数値を中心とする情報の流れとその活用という視点に加えて、組織成員に影響を与えるシステムとしての研究が行われています。この講座では、いくつかのユニークなケースを紹介しします。その分析を深めていく過程で、管理会計理論の面白さや、その意外な一面について伝える講座にしたいと思っています。
第4回	令和2年11月25日(水)	春を告げる、岩木川のウグイ漁	講師:人文社会科学部教授 曾我 亨(専門:人類学) 内容:毎年、春になると、ウグイが産卵のために川を遡上してきます。日本各地で、このウグイを捕らえる漁が行われてきました。岩木川では、川底に人工の産卵床をつくっておびき寄せ、投網でつかまえるシゲタ漁が行われています。本講義では、このシゲタ漁の魅力と意義についてお話しします。
第5回	令和2年12月9日(水)	地域文化資源が求められるとき	講師:人文社会科学部准教授 葉山 茂(専門:博物館学・民俗学) 内容:災害復興のなかで、私たちはなゼインフラ整備だけでは十分に復興したと思えないのでしょうか。この講座では東北地方太平洋沖地震にともなう文化財レスキューをとりあげて、地域にとつての文化的意味、そして地域の人々が文化的資源を発見する意味を考えます。
第6回	令和2年12月23日(水)	占領期の『月刊東奥』から見る青森の戦後	講師:人文社会科学部准教授 尾崎 名津子(専門:日本近現代文学) 内容:東奥日報社が発行していた総合雑誌『月刊東奥』のうち、1945年8・9月合併号から1950年3月の休刊号までを通覧します。この期間はGHQ/SCAPによる占領期にあたります。占領期の青森では、何が話題になったのでしょうか。また、誰が、どのように言論を牽引したのでしょうか。文学者たちの寄稿も含めて解説します。
第7回	令和3年1月13日(水)	コンビニと独占禁止法	講師:人文社会科学部准教授 長谷河 亜希子(専門:独占禁止法) 内容:24時間営業の継続や長時間労働、本部から加盟店に対する様々な負担の押し付けなどが問題となっているコンビニ業界。そういった行為を規制対象とする「独占禁止法」について、コンビニ問題を通じて学びます。
第8回	令和3年1月27日(水)	経済効果の測り方 -産業連関分析入門-	講師:人文社会科学部准教授 小谷田 文彦(専門:産業組織論) 内容:日本各地で様々なお祭りが開催されたり、新しい施設が開業したりすると「経済効果〇〇億円」等と報道されます。このような経済効果はどのように計算されるのでしょうか。計算の基となる「産業連関表」の見方、経済効果の計算方法等をやさしく解説します。
第9回	令和3年2月10日(水)	奄美と青森の意外な縁 ~笹森儀助と奄美方言~	講師:人文社会科学部助教 新永 悠人(専門:記述言語学、北琉球語) 内容:明治時代の弘前出身の冒険家であり、晩年には青森市長となった笹森儀助。その彼が、奄美大島の行政のトップである「島司」をつとめた歴史があります。「島により方言が違い閉口した」と儀助が語る琉球の、特に奄美で話されている言葉の魅力にせまります。
第10回	令和3年2月24日(水)	東日本大震災から10年をふりかえる	講師:人文社会科学部教授 李 永俊(専門:労働経済学) 内容:東日本大震災から10年の月日が流れようとしています。2011年3月11日から私の生活も大きく変わりました。1人のボランティアとして、研究者として現場で感じたこと、学んだことをふりかえり、震災の教訓をどのように生かしていけばよいかを一緒に考えます。



お問い合わせ

弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター

〒036-8560 青森県弘前市文京町1 TEL 0172-39-3198 (平日10:15~17:00)

E-mail irrc@hirosaki-u.ac.jp URL <http://human.cc.hirosaki-u.ac.jp/irrc/>